

5月例会(第86回)のご案内

高度医療の病院で子どもと遊ぶボランティア 18年 ～ 社会は何ができるかを学ぶ

【講師】 坂上 和子 さん(NPO法人 病気の子どもの支援ネット遊びのボランティア 理事長)

20年前、私は新宿区の職員で、病院を訪問する保育士をしていた。そのとき、白血病の2歳の子どものたったひとりで個室にいた。母親は出産で付き添えず、父親は地方に転勤、テレビが子守代わりという寒々とした環境に置かれていた。

そのような子どもたちのために、遊びのボランティアは始まった。病と闘う子どもにとって、遊びは“いのち”である。家族にとっても、子どもの遊び相手はありがたい。子どものそばをひととき離れて休息を得、再び介護にむかう力を得る。この活動は18年の間に6病院に広がった。

小児医療は不採算部門で、1ベッドに年間1千万円の赤字を出すといわれ、保育士や看護師を増やすことも困難である。近年、核家族化が進み、ひとり親の家庭は全国で300万世帯を越え、この10年間に1.4倍に増加している。ひとり親は一家の働き手でもあるため、子どもが入院しても付き添えない状況が生まれている。

こうした中で遊びのボランティアの動きは、ますます重要になっている。当初週1回土曜に始まった活動が、現在は平日や夜間にも訪問し、遊び場所もプレイルームからベッドサイド、クリーンルーム、ICU、ときには緩和ケアにおける関わりも経験し、チーム医療の一員として位置づけられてきた。

遊びのボランティアは、闘病する子どもの日常にいるために、死別を経験することもある。闘病の日々に支えられた経験は、家族にとって特別な信頼関係を生み出し、子どもの死別後もつながりが続くケースもある。

【著書】 「病気になってもいっぱい遊びたい」 2008年 あけび書房

「病院で子どもが輝いた日」 共著 1995年 あけび書房

【日時】 平成21年5月16日(土) 14:00～16:30

【場所】 真生会館第一会議室 Tel 03-3351-7121

JR信濃町駅 下車1分 改札口を出たら、切符売り場に沿って、右へ、右へと歩く。

駅を出て、右側に見える花屋(ティハナ)の左隣の建物。

地図(http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/shinseikaikan_abs.html#map)

【参加費】 1000円(学生・障害者 500円) ☆どなたでも参加できます。事前申込は、不要です。
なお、終了後、懇親会(2000円程度)を予定しています。

【問合せ】 090-9146-6667(関根) beg_minato@yahoo.co.jp(湊)